



ぼろにあ祭 田高生の心意気に感動

校長 海發 真一

第54回ぼろにあ祭が9月15日（土）、16日（日）に開催されました。実行委員の生徒が中心になって催し物の企画や準備を進め、ホームルーム、委員会、部活動の各団体による演劇・公演、展示・発表、模擬店、授業や総合的な学習の時間における研究成果発表と、田高生は文化の薫り高い学園祭を堂々と創り上げました。今年度のスローガンは「百花繚乱-咲き誇れ705の花-」です。「百花繚乱」はいろいろな花が咲き乱れる様子を表しますが、転じて、多くの秀でた人たちが一堂に会する状況をも意味します。まさに秀逸を極める全ての田高生がオンラインのスキルを存分に開花させ、来校くださった近隣地域、近隣学校の校長先生、中学生、卒業生、保護者の皆様にたくさんの感動をもたらしたことを嬉しく思っています。

初日は、3年生の演劇祭からスタートしました。3年生は進路希望実現に向け勉強に取り組む大切な時期ですが、一人一人が予定を遣り繰りしての参加となりました。高校生活最後の学校行事に向けクラスの仲間と協力して取り組む活動は、田園調布高校やホームルームへの帰属意識や仲間との連帯感を深める上で大変意義のあるものです。友だちと協力して一生懸命に取り組んだからこそ得られる感動や充実感は、仲間と共に田高で学んだ証（あかし）となっていつまでも心に残るものだと思います。

私は全クラスの演劇を楽しみましたが、全ての劇に貫かれた人の心の温かさにほっとしました。B組は、等身大のロミオが告白を受け、「普通の人間でもいいの？」と語る謙虚さが印象的です。等身大とはあるがまの姿を表しますので、素直さを前面に出した演出がよかったです。D組は、体育祭の優勝トロフィーが壊されるというショッキングなスタートで、生徒はその犯人を捜すためにタイムマシンに乗って過去を旅するというユニークな設定でした。C組は、新喜劇を緻密に研究した脚本が見事で、どたばたを上手に演出し笑いを誘いました。F組は、人を好きになる要素は決して外見ではないというアンチテーゼを主張した脚本が工夫されていました。A組は、半年付き合った彼女に振られたうえに突如としてインドに舞い降りるという展開が意表を突いています。「おいしいカレーを食べれば傷ついた心も癒えるよ」と声をかけたカレーショップの店員さんの温かさに心が和みました。E組は、サスペンスドラマ風のストーリーで脚本、演出ともによく練られた展開です。

体育館ステージプログラムやサブアリーナの催し物では、吹奏楽部、箏曲部、ピアノ部の演奏、ダンス部、演劇部による公演が行われ、観る人、聴く人の心に響く成果を上げました。

校舎棟では、映像・展示、縁日・模擬店、お化け屋敷、ゲーム等、1・2年生のクラスによる催し物や茶道部のお点前、かるた部の競技かるた体験、マール部の焼き菓子販売、美術部の作品展、修学旅行事前学習展示等が行われ、田高を非日常の空間に仕立ててくれました。1年生は装飾のレベルが、2年生は企画力が高いと感じます。それぞれが熱い思いで取り組んだ成果です。

以前読んだ本に、「人は花が欲しくて花を買いに来るわけではない。だから、花屋さんの仕事は花を売ることではない」ということが書いてありました。人は花がもたらす心地よさや幸せな気分を求め、花屋さんはお客さんに、そんな豊かな気持ちを創出するといったところでしょうか。調理室担当の生徒は、一日中大忙しで焼きそばやお好み焼き、かき氷を作りました。文化祭という特異な空間でこれらを食べる「心地よさ」をお客さんにプロデュースしたという見方は、もっと強調されてよいと思います。

閉会式で実行委員長の生徒は、「皆がいたから頑張れた。ぼろにあ祭を創り上げることができた」と熱く語りました。全生徒が満身の力をもってこの2日間を演出したことに、あらためて敬意を表します。



創意工夫

副校長 牛込 俊裕

ぼろにあ祭を無事終えることができました。とても良い出来ばえだったと自負しています。生徒のみなさんの創意工夫と、チームワークに裏付けられた発表を見ることができました。本年度のスローガン、「百花繚乱、咲き誇れ、705の花」を具現化した、生徒一人ひとりの個性が調和された文化祭でした。今回はぼろにあ祭を受けて、私が創意工夫したことについて述べます。

田高に来る前は八丈島にいました。月に2回、高校生が小学生の勉強会を手伝うことがあり、私も生徒とともに隔週の土曜日参加していました。また、隔月で勉強会のテーマを中心に任されることもあり、その時の工夫を述べます。教室の窓からは空港が見え、1日に3回、ANAのジェット機が来ます。小学生は、いつもこの離着陸を見

て成長しています。そこで、子供たちがいつも見ている着陸のように、ゆっくりと飛行する紙飛行機（以下、実際の航空機との区別をするため、制作する紙飛行機をヒコーキと呼ぶ）の作成をテーマにしました。当時、ちょうど前にヒットしたジブリ作品の「風立ちぬ」の気持ちで取り組んだことを思い出します。

通常のヒコーキの場合は飛行速度が 2 m/s と仮定し、これを 0.5 m/s 以下にすることを目標にしました。飛行機は揚力と重力の釣り合いで飛んでいると仮定します。揚力 L は流体密度を ρ (kg/m³) は、相対速度を v (m/s) は、面積を S (m²) 揚力係数を C_L (－) として

$$L = \frac{1}{2} \rho v^2 S C_L$$

着陸時の推進力を重力と仮定すると、重力 W は、質量 m (kg)、重力加速度 g (m/s²) より、

$$W = mg$$

揚力と重力は釣り合いが取れているので、

$$L = W$$

例えば、飛行機をエアバス A320 として、時速 200 km (56m/s とする) で着陸するときには、空気の流体密度を 1.3 kg/m³、主翼面積を 325m²、フラップ分を a m² とすると

$$\frac{1}{2} \times 1.3 \times 55^2 \times (325 + a) \times \text{エアバスの揚力係数} = 42600 \times 9.8$$

ヒコーキを作るには速度を 0.5m/s、翼面積を 10×10cm² (0.01m²)、揚力係数を 1 として

$$\frac{1}{2} \times 1.3 \times 55^2 \times 0.01 \times 1 = \text{ヒコーキの質量} \times 9.8$$

よって、ヒコーキの質量は 0.2 g となります。上質紙 A 4 版の質量は約 4 g です。1/20 の軽量化が必要です。ここで利用したのが以前、青少年科学の祭典で教えていただいた発泡スチロール紙です。梱包資材の発泡スチロールをニクロム線でスライスして、シートを作成します。この時のニクロム線径と電圧、ニクロム線の引張強度を割り出すのに時間がかかりました。取り出せたシートは A 5 版で約 0.5g、翼面積を差し引くと目標値を達成できました。

実験室で高校生が手伝い、小学生と作成したヒコーキは、ふわふわと優雅に教室の中を巡回しました。ヒコーキが飛ぶ姿を見ていると、映画の主題歌である「ひこうき雲」の旋律が蘇りました。窓の外には滑走路が見え、この光景がどこまでも続いているように思えました。

進路指導部より

進路指導部 森田 真央

田高進路プロジェクト 2018 2 学年対象「大学出張講義」について

6 月 14 日 (木) 5・6 校時に、第 2 学年全員を対象とした、「大学出張講義」を実施しました。大学の授業を実際に体験し、各分野の先生の講義を聞くことで、大学の授業の様子を知ると同時に、広く一般教養を高める機会になりました。

「大学出張講義」：講義タイトルと講師紹介

- | | |
|---|---------|
| 1 明治大学 | 工藤 寛之先生 |
| 「次世代医療からスマホまで！ココロとカラダを情報化する最新生体センシング技術」 | |
| 2 中央大学 | 福島 一矩先生 |
| 「企業活動のなぜ？を説明する」 | |
| 3 慶應義塾大学 | 栗原 志功先生 |
| 「システム×デザイン思考で世界をハッピーにしようぜ！」 | |
| 4 都留文科大学 | 市原 学先生 |
| 「テストの科学」 | |
| 5 埼玉大学 | 嶋津 拓先生 |
| 「海外での日本語学習 ―ソトから見た日本語―」 | |
| 6 東京大学 | 高木 周先生 |
| 「スーパーコンピュータを用いた人体のシミュレーション」 | |
| 7 東京大学 | 堀越 耀介先生 |
| 「すべての人のための哲学と哲学対話」 | |
| 8 一橋大学 | 太田 薫乃先生 |
| 『「社会」学って何だ？～世の中をちょっとおもしろく見てみよう～』 | |
| 9 東京学芸大学 | 犀川 政稔先生 |
| 「導管の一部が誤って篩管とされてきた高い可能性について」 | |

今後の予定など

- 【3 年生】 9 月 13 日 指定校推薦 第一次選考会議
 9 月 20 日 大学入試センター試験の志願票校内(進路指導部)提出締切日

10月 5日～ 大学別入試対策説明会

一般(公募)推薦やAO入試の出願が始まりました。今後就職・公務員試験も続々実施されます。推薦書、調査書の依頼、願書の提出などの日程を意識しながら生活しましょう。何事も早くから十分な準備をして、具体的な作業に取り掛かったほうが成功する確率は上がります。進路の説明会や講演会など大いに活用して、自分の進む道を決めていってください。

【2年生】10月12日(金)大学説明会

16大学のうち興味のある2校を選択し、各大学のカリキュラムや特色について説明を受けます。2年生のうちに自分の進路について必要な情報や資料を収集し、じっくり考えていく機会にしてください。

【1年生】10月12日(金)大学説明会

1年生は16大学のうち一つの大学を選択し、大学のカリキュラムなどについて説明を受けます。また3クラス合同で中央大学入学センターの方より、進学に対する姿勢と大学で学ぶべきことについての講演会を聞きます。自分の進路について真剣に考える機会と捉えて講演会および説明会に参加しましょう。

ぼろにあ祭を終えて

生活指導部 荻原 秀明

2018ぼろにあ祭を振り返って、今年度は、昨年以上に「進化」を目にする「ぼろにあ祭」でした。オープニングセレモニーも2回目を迎えパワーアップしたように感じました。演劇祭も各クラスの工夫が見えます。二日目は天候にも恵まれ、校内の展示・飲食・イベント企画など活気に溢れていました。動線も新たに開放感漂う中庭が再現、企画審査の投票箱も新たに設置、多くの方に評価をいただきました。みなさんお疲れ様でした。そして、実行委員会は来年度に向けてスタートするところです。

初めてのぼろにあ祭

第1学年 渡辺 敬彰

1年生にとっては初めての「ぼろにあ祭」を無事に終えることができました。1年生の共同作品「ギースプロジェクト」として、モザイクアートにも取り組み、3階多目的教室に展示させていただきました。来年度の修学旅行の事前学習レポートもクラスごとに展示いたしました。生徒たちが主体的に準備し、また、HR委員を中心にパネルの制作から展示会場の準備に至るまで、精力的に活動した甲斐もあり、保護者の皆さまをはじめ、多くのお客様に見ていただくことができました。ご協力いただきました、保護者の皆さま、経営企画室の皆さまには心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

1年生はこの「ぼろにあ祭」を通して多くのことを学びました。終了後に書いた作文の中でも、実行委員への感謝の気持ちや、サポートしてくれた人々への思いを綴った言葉が多くありました。「これだけクラスのみなががんばっていたのだから、結果的に何もとれなかったけど、実行委員の二人を含める全員に心の中で優勝トロフィーを贈呈したいと思う。」「人と人とのつながりを感じ、協力することの大切さを改めて実感することができた。」「開催するまでにこんなに多くの人に関わっていて、相当な準備を重ねているのだと知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。」また、多方面で活躍する先輩方を見て、心を動かされた生徒も多くいたようです。「笑顔で接客した後、教室の中までやさしく付き添ってあげていた2年生の姿を見て、自分がお年寄りの方を接客したらそこまでできるかなと、心を動かされた」「3年生の劇の脚本や演技がすごく上手でびっくりした。同じ高校生とは思えないくらい完成度が高かった。2年後は先輩方のような素敵な劇をやってみたい。」

クラス企画以外にも、舞台上で発表の機会をいただいた1年生からの言葉を紹介させていただきます。「文化祭で先輩と演奏できる最初で最後の機会を無駄にしないようにという気持ちで、最後までやりきることができました。」「舞台の上から見た大勢のお客さんと、踊り切った後のみんなの最高の笑顔は忘れられません」「文化祭であんなに素晴らしい環境で踊れたのは周りで支えてくれた人たちのおかげ。この日のために汗を流し、涙した3泊4日という充実した合宿の日々を忘れず、そして感謝の気持ちを忘れずに、これから過ごしていきたい」

複数の役割を担う生徒もいる中で、どのクラスでも、準備期間から、いろいろなことがありました。「準備の集合時間になっても人が集まらない」「準備や制作が思ったように進まない」「特定の人しか集まらない」そんな苦しい日々を乗り越えて何とか一つのをみんなで作り上げ、当日を迎えることができました。「来てくださったお客さまを笑顔にできた。」片付けの際に積み重なったのは役割を終えた段ボールたちだけではない、やり切った達成感と周囲への感謝の思い。その経験こそ、この後の行事や次の学年での活躍につながるのでしょうか。感動をありがとう！



ぼろにあ祭での深い学び、そして修学旅行へ

第2学年 高野瀬 一

2年生としてのぼろにあ祭、中核学年にふさわしく多種多様な企画で学校を彩りました。そして各クラスが協働して準備にあたり築き上げた催しはどれも質が高く、それぞれに魅力的なものばかりでした。

A組「テツオの部屋」は文化祭お化け屋敷でおなじみの机を積み上げた会場づくりをせずに、天井に紐を通してビニールで仕切りをするという斬新な手法に驚かされました。装飾も凝ったもので怖がりの私は前日準備で明るい中見回るので精いっぱいでした。B組は「2B級グルメ」。広島風お好み焼きとレモネードという、修学旅行を意識して量産するには手間のかかるメニューに挑みました。人間お腹がすくとイライラするものです。皆さんが来校者の胃袋を満たしてくれたおかげで平和なぼろにあ祭が行えたといっても過言ではないでしょう。C組は「What 〜ピエロの住処からの脱出〜」。いわゆる迷路、というものでしょうか。ところがこの迷路、四つん這いで進まねばならないという40代男子には極端にハードなエクササイズを要求してきます。膝と腰に不安のある私は途中で泣きそうになりました。ペンギンになりたいと思ったのと、腹に車輪がほしいと願ったのは生まれて初めてです。最優秀クラス賞を獲得したD組は「奏デリカ」。コンサートとタコス&かき氷、そして室内装飾のテーマはメキシコ風？という、一見支離滅裂なコンセプトを高度に融合させ、客の五感すべてに訴えるというすさまじい力技を披露してくれました。私も終盤お粗末な演奏で参加しました！楽しかったです。E組は「VS 2E」。ボーリングやコインタワー等のミニゲームを楽しめる空間を提供してくれました。2階の催し物はどれも主張が激しく、刺激に弱い私は2日目の中盤くらいでへこたれてしまいました。装飾もかわいらしい2Eの醸し出すおおらかな空間はそんな私を和ませるのに十分でした。2Fが挑戦した「箱」は、私が知る限り田高初のライド型お化け屋敷です。トロッコ型のライドを3台作るだけでも相当な労力だったはず！しかもライドのルートには坂道もあり、その設計力と制作技術には脱帽です。

そんな楽しかったぼろにあ祭も終わり、いよいよ修学旅行が近づいてきました。地方での家業体験、平和・防災学習と盛りだくさんですが、まずは体調を整えて全員そろって出発できるよう願っています。そして皆さんの進路実現に向けた取り組みもいよいよ本格化する時期です。以前にもまして毎日の授業を大切に受けて、家庭での学習も疎かにしないようにお願いします。高校生活も折り返し地点、勉強と行事や部活を両立させて、充実した学校生活を！！

力を合わせた演劇祭

第3学年 吉田 宣浩

ついに67期生にとって最後で最大の学校行事である「ぼろにあ祭」が幕を閉じました。

3年生が伝統的に行っている「演劇祭」は、教員に頼らない（出演させない）、映像に頼らない（使っても短時間）という新しい決まりの中で、生徒たちは実際教員に余り頼らず、かなり自主的に取り組んでいたと思います。しかし、一学期はなかなか話し合いが進まず、「みんなが話し合いに参加してくれない」「稽古や準備になかなか人が集まらない」という不満もあちらこちらから聞こえてきました。それが、夏休みも後半になると、どのクラスも危機感に襲われ、徐々にメンバーが集まって作業が進むようになり、8月30～31日のリハーサルは、各クラスとも役者はもとより、大道具や照明、音響などの係も揃って、何とか無事に終了し、本番に向けてめどが立ちました。

本番の「演劇祭」では、どのクラスも真剣な演技を披露するとともに、照明・音響なども工夫を凝らし、とても見応えがありました。大賞を始め、ほとんどの賞をD組が総なめでしたが、他のクラスも十分楽しませてくれました。もちろん、その陰には実行委員を始め、クラス委員や各部門で責任者となっていた人たちの苦労があったはず。そのことを、忘れないでほしいと思います。皆さん、ご苦労様でした。

さて、ぼろにあ祭が終わると、すぐに受験シーズンとなります。普段の授業や定期考査の他に、センター試験の願書提出から4回の校内模試受験、AO・推薦受験、大学別説明会、私大受験の願書提出など、息つく暇もなく2学期が終わってしまいます。年が明けると1月のセンター試験、2～3月の私大受験、国公立前・後期入試などが延々と続きます。

気力・体力を整えて乗り切ってほしいと思います。悔いのない日々を送ってください。

経営企画室からのお知らせ

今年度の就学支援金、給付型奨学金、奨学のための給付金につきましては、マイナンバー制度を利用し始めた最初の年にもかかわらず、ご協力頂きありがとうございます。

就学支援金についての家計急変等による随時申請以外は、今年度の受付は終了しました。

1・2年生につきましては、3学期になりましたら、来年度の給付型奨学金についてのお知らせをすることになるかと思っておりますので、その際はよろしくをお願いします。